

補足資料1 説明文読解方略の3因子7方略（犬塚（2008）より作成）

方略使用傾向	理解補償方略	部分的な理解のつまずきを解決する方略	意味明確化方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ どういう意味かをはっきりさせながら読む ・ 各文は簡単に言うかどうかを考えながら読む ・ 難しいことばは自分のことばで言いなおす ・ 難しい文は、自分のことばでかみ砕いて言い直しながら読む
			コントロール方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意味が分からないところや難しいところをくり返し読む ・ 分からないところはゆっくりと読む ・ 時々読み進むのをやめて、それまでに読んだ内容を思い出す ・ どれくらい難しいかを判断して読むスピードを調節する ・ わからなくなったら、どこからわからなくなったのかを考え、そこから読み直す ・ 一度読んだだけでは理解できないときは、もう一回読んで理解しようとする
	内容学習方略	テキストの全体的な内容を学習するための方略	記憶方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大切なところを書きぬく ・ コメントや内容をまとめたものを書き込む ・ 大切なところに線を引く ・ 段落ごとのまとめ（要約）を書く ・ 内容をまとめるために簡単な表や図を書く
			要点把握方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大切なことばは覚えようとする ・ 難しいことばやないようは理解しないで丸暗記してしまう ・ 覚えるためにくり返し読む ・ 大切な文は考えずにそのまま覚えようとする
			質問生成方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生ならどういう質問をするか考えながら読む ・ 自分がどのくらい分かっているかをチェックするような質問を自分にしながら読む ・ 読み終わってから、自分がどのくらい分かっているかチェックするような質問を自分にする
	理解深化方略	理解をより深いものとするために、文章の構造のような、必ずしも明記されていない点に注目し、自らの理解と統合しようとする方略	構造注目方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次にどういう内容が書かれているかを予想しながら読む ・ 文章の組み立て（構造）を考えながら読む ・ 題名を考える ・ 意味段落に分けて考える ・ どこどこが対応しているを考えながら読む ・ 接続詞（しかし、そして、つまり、などのことば）に注目しながら読む ・ 文脈から全体像を予測する
			既有知識活用方略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が今まで知っていることと比べながら読む ・ 新しいことばを覚えるために具体的な状況を思い浮かべる ・ 既に知っていることと読んでいる内容を結び付けようとしながら読む ・ 具体的な例を挙げながら読む

補足資料2 3 カテゴリー7下位方略の読み方略の分類（井関・海保（2001）より作成）

メ タ 認 知 方 略	目的にふさわしい読みの計画を立案し、読みの過程が計画に従って遂行されるようにモニタリングするための方略	<p>プランニング方略</p> <p>読みの計画を立て、その進行をチェックする方略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読む前に、これから何について読もうとしているのか考える ・読むときに、あとで思い出すための方法を工夫する ・目的に合った読みができていないか絶えずチェックする ・読んだ内容について、しばらく考える ・読む前に、どこまで読むかを決めておく ・どういう読み方をすればよくわかるか考える ・読んだ内容について、自分なりの理解をしようとする
		<p>モニタリング方略</p> <p>理解を確かめ読みを方向付ける方略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないところはどこか気をつけながら読む ・読んでいて、わからないところがあったら、人にきく ・内容が理解できているか確かめながら読む ・読んでいるときに、一度読んだところを見なおす ・読んでいるときに、それまで読んだ内容をおぼえているか確かめる ・読んだあとに、自分の理解が正しいか人に確かめる ・読んでいるときに、おぼえられるようにくりかえし心の中で考える ・大切なところはどこか考えながら読む
テ キ ス ト 情 報 取 り 込 み 方 略	テキストの中に作り込まれているさまざまな作法（リテラシー）に注意を向けてそれを利用したり、内容の軽重や困難さに対応するための方略	<p>ドキュメント作法利用方略</p> <p>文章に組み込まれた仕掛を利用する方略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太字や傍点があるところには特に気をつける ・文章の構成（結論が最初にくる・例をいくつも並べて行くなど）に気をつける ・意見なのか事実なのか区別してよむ ・読む前に全体にざっと目を通してみる ・段落ごとの意味のまとまりに注意して読む ・本文とは別にまとめがあるときは、必ず読む ・表やグラフは本文と照らし合わせて見る ・文章の章や節の区切りに気をつけて読む ・読む前に目次をよく見る ・中断するときは章や節の切れ目で読むのを止める
		<p>選択的注意方略</p> <p>内容の重要さや困難度の判断に基づいて読み方を変えようとする方略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからなかったところにしるしをつける ・新しい言葉や知らない言葉が出てきたらしるしをつける ・大切そうなところだけ読む ・大切なところはくりかえし書いておぼえる ・大事だと思ったところは、文章に線を引く ・むずかしいところは、声に出して読む ・わからないところがあったら、一度最後まで読んでからあとでゆっくり考える ・内容のむずかしさや重要さによって読む速さを変える ・大事だと思った文章全体や段落全体を線で囲む ・大切なところはくりかえし声に出しておぼえる ・よくわからなかった部分を書き写す ・むずかしいところは、くりかえして読む ・知らない言葉が出てきたら、意味を推測して読む

精緻化方略	テキストを字義通りに理解することに加えて、 既有知識と関連づけて新たな知識を促す方略	命題理解方略 命題レベルでの精緻化	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでいるときに、内容を頭の中で思い浮かべる ・わからない言葉に出会ったときには、辞書で調べる ・読んでいるときに、思いついたことを声に出して言う ・わかりにくい文は主語や述語など、要素に分解する ・読んでいるときに、気づいたことをテキストに書きこむ ・読んでいるときに、内容に関係することをできるだけ多く思い出す ・書かれている内容について、具体的な例を考える ・傍点がふってあるとき、なぜその部分に傍点がふられているのか考える
		内容理解方略 テキストのマクロな内容を理解しようとするもの	<ul style="list-style-type: none"> ・今読んでいるところと、ほかの部分との関係に注意して読む ・読みながら、内容を書いてまとめていく ・読んだあとに、要約文やまとめ（本文についているもの・自分で作ったもの）から内容を思い出してみる ・読んだあとに、頭の中で要点をまとめる ・読んだあとに、内容を図表やチャートにしてまとめる ・話題のつながり方（逆説・並列など）に気をつける ・読んだあとに、内容を文章で要約する ・著者の考えの筋道を追うようにする ・話題の関係（対比・具体化など）に気をつける ・今読んでいるところと、全体との関係を考えながら読む ・一度読んだあとに、目次から内容をイメージする ・文章をいくつかの部分に分けて、それぞれに小見出しをつける ・頭の中で要点をまとめるとき、本文の図表を利用する
		知識形成方略 テキストから得られた情報をより広い文脈で既有知識と関連づけるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでいることと、自分がすでに知っていることを関係づける ・まとめるときに、本文に書いていないことでも役に立つと思うことは書いておく ・新しい内容について読んだとき、それがどんなところで使えるか考える ・書かれている内容に誤りがないか考える ・自分が面白いと思ったところにしるしをつける ・読んだ内容の中で、疑問に思ったことについて考える ・筆者の考え方・ものの見方を学ぼうとする ・気になる場所があったら参考書や事典で調べる ・気になる場所は、付せんをつけたりページを折ったりする ・むずかしい言葉を自分の言葉に置き換える ・直接本文で述べられていないことについても考える ・自分の言葉でテキストの内容をまとめる ・例を考えるとき、自分自身の経験や観察から例をあげる

「ひとりでは生きられないのも芸のうち」

内田 樹

- ①私は自分で生活費を稼いでいるし、身の回りのことはだいたいひとりでもできるけれど、そんなことを少しもよいことだとは思っていない。できることなら私の代わりに誰かがお金を稼いでくれて、ご飯も作ってくれるし、洗濯もアイロンかけも、ゴミ出しもトイレ掃除も全部してくれる状態が来ればいいなと思っている。だって、そうすれば、私はその誰かに代わってお金を稼いんだり、ご飯を作ったり、洗濯をしたり、アイロンかけをしたり、ゴミ出しやトイレ掃除をすることができるからである。
- ②自分がしなければいけないことを誰かがしてくれれば、そうやって済んだリソースで他人のしなければいけないことを私が代わりにやっておけることができる。それがレヴィナスの言う「*pour l'autre*」（他者のために／他者の身代わりとして）というものの原基的な形態だと思う。それが「交換」であり、それが人性の自然なのだと私は思う。ひとりでもできることをどうして二人がかりでやらなければならないのか、理解できない人がいるかも知れない。その人はたぶん「交換」というものがどのように構造化されているのか、その人類学的な根本事実を理解し損ねている。
- ③「交換」の起源的なかたちは「キャッチボール」という遊びのうちに生き残っている。ひとりが投げる、ひとりがそれを受けとり、投げ返す。この遊びが「交換」の原型である。このやりとりは何の価値も生み出していない。だから、経済合理性を信じる人には、これはエネルギーと時間だけがむなしく費消され、ボールやグローブが少しずつ磨滅する「純然たる無為」に陥る。けれども、私たちは実際には飽きることなくこのボール

に相手とやりとりを有することを繰り返されていることである。

⑤あなたなしでは私はこのゲームを続けることができない。キャッチボールをしている二人は隣りなくそのようなやりとりをしているのである。このとき、ボールと手を交しているのは、「I cannot live without you」といっているのである。

⑥これが根源的な意味での「贈与」である。私たちはにして他者の存在を祝福し、同時に自分の存在の保証を行う。「私はここにいてもよいのだ。なぜなら、私の存在している人が現に目の前にいるからである」という交換は人間の人間の尊厳を基礎づける。交換の本質的な相互的な「存在の根拠づけ」に存するのであり、記号や商品や財貨といった「コンテクスト」には馴染みしかない。

⑦ひとりでもできることを二人がかりでやる。それによあなたなしでは私はこのことを完遂できない」というやりとりを相互に贈り合うこと。それがもつとも純粋な交換のあり方である。

I cannot live without you.

これは私たちが樂することのできるもつとも純度の高い言葉である。

⑧私はこの *you* の数をどれだけ増やすことができるか。それが共同的に生きる人間の社会的成熟の指標であると思われる。幼児にとつてこの *you* はとりあらず母親ひとり。子どもがだんだん成熟するに従って、*you* の数は増えだぶん、ほとんどの人は逆に考えていると思うけれども、人がいなくては生きてゆけない「人間」の数の多さこそその指標なのである。

思っていない。

②自分がしなければいけないことを誰かがしてくれば、他

人のしなければいけないことを私が代わりにやっ

てあげることができる。それが

[]

である。

③ [] に交換の本質がある。

と私たちは無意識のうちに知っている。

④球を投げ、捕球するつとお互いを

[]

ことを知る。

[]

⑤キャッチボールをしている二人は

[]

をやりとりしている。

[]

⑥交換は人間の

[]

を基礎で

ける。

⑦「あなたなしでは私はこのことを理解できない」というス

トーを贈り合うことが、

[]

[]

イ 私たちが何の価値も生み出していない。絶えることなく興じるのは、キャッチボ

ウ 「交換」の原始的なたちが「キャッチ」と言えるのは、私たちがキャッチボ

エ 「交換」の原型であるキャッチボ

オ 「交換」は、他者の存在を認識し、回

カ 筆者は、自分の意見とは逆の意見であ

キ 「交換」は「あなたなしでは私はこの

ウ 具体例を通じて「交換」について説明した上で、人間の「成熟」について考えを述べている。
 エ 筆者の主張となる「交換」について述べた上で、具体例として「キャッチボール」や「成熟」を挙げて説明している。

(四) 本文で、筆者の最も言いたかったことは何か、書いてください。

球したときの手のひらの満足げな痺れ」という表現をします。筆者が、「あなたなしでは私はこのことを完遂できない」というメッセージのやりとりを、単なる言葉として掛けるのではなく、「キャッチボール」を使って表現したのは、と思いますか。

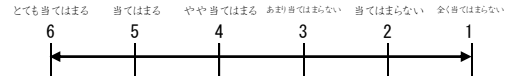
(六) 「その人がいなくては生きてゆけない」という言葉は「その人がいると生きてゆける」という言葉と同じ意味を表します。「その人がいなくては生きてゆけない」と「その人と生きてゆける」という表現では、どのような違いやあると思いますか。

解答

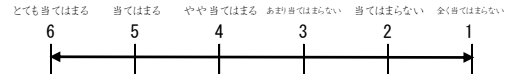
- X三X二 (一) ① ひとりできること ② 「交換」 ③ キャッチボール ④ 要請しあっていること
 ⑤ メッセージ ⑥ 人間的尊厳 ⑦ 最も純粋な交換 ⑧ 「成熟」
 ウ × イ ○ ウ ○ エ × オ ○ カ × キ ○

Ⅲ わからないところがあったとき、どうしましたか？

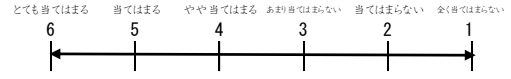
18 難しい言葉は、別の表現で言い直してみた。



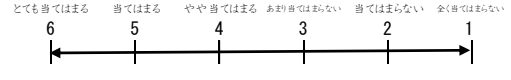
19 わからない文は主語や述語など、要素に分解して考えた。



20 わかりにくいところは、自分自身の経験から推測して読んだ。



21 わからないところは、筆者がどのような説明の仕方、何を主張しようとしているのかを考えて、理解しようとした。



補足資料5 質問紙で用いた読解方略項目の出処

I 最初に文章を読むとき、どうしましたか？

1. 文章を読む前に、まず質問を見た。……（考）
2. 題名や筆者名を見て、どのような話なのか考えた。……（井）《プランニング》
3. わからないところがあっても、とにかく最後までひととおりに読んだ。……（井）《選択的注意》、（現）
4. わからないところがあったら、そこでいったん読み進めるのをやめて考えた。……（考）
5. 大切そうなところはよく読んで、そうでないところはさっと読んだ。……（犬）《コントロール》、（井）《選択的注意》
6. わからなくなったら、どこからわからなくなっただのかを考え、そこから読み直した。……（犬）《コントロール》

II 文章を読みながら、どのようなことを考えたり行ったりしましたか？

7. 抽象的な言葉を、具体例を挙げて説明しているところに気をつけて読んだ。……（犬）《構造注目》、（井）《ドキュメント作法利用》《内容理解》
8. 接続詞や接続表現に気をつけて（印を付けたりしながら）読んだ。……（犬）《構造注目》、（井）《内容理解》
9. 意味段落のまとまりを意識しながら読んだ。……（犬）《要点把握》、（井）《ドキュメント作法利用》
10. 文章の構成（結論が最初にあるか、最後にあるかなど）を意識しながら読んだ。……（犬）《構造注目》、（井）《ドキュメント作法利用》
11. 意見なのか事実なのか区別して読んだ。……（井）《ドキュメント作法利用》
12. 筆者の説明の仕方はつじつまが合っているか、考えながら読んだ。……（井）《知識形成》、（考）
13. キーワードを探しながら読んだ。……（現）
14. 強調表現を確認しながら読んだ。……（現）
15. 繰り返しの表現に気をつけながら読んだ。……（現）
16. 大切そうなところに線を引いた。……（犬）《要点把握》、（井）《選択的注意》、（現）
17. コメント（気づいたこと）や内容をまとめたものを書き込んだ。……（犬）《要点把握》、（井）《命題理解》

III わからないところがあったとき、どうしましたか？

18. 難しい言葉は、別の表現で言い直してみた。……（犬）《意味明確化》（井）《知識形成》
19. わからない文は主語や述語など、要素に分解して考えた。……（井）《命題理解》
20. わかりにくいところは、自分自身の経験から推測して読んだ。……（犬）《既有知識利用》、（井）《知識形成》、（考）
21. わからないところは、筆者がどのような説明の仕方で、何を主張しようとしているのかを考えて、理解しようとした。……（井）《内容理解》、（現）

*（犬）…犬塚美輪（2008）「中学・高校期における説明文読解方略の発達と指導」

（井）…井関龍太・海保博之（2001）「読み方方略についての包括的尺度の作成とその有効性の吟味」

（現）…調査協力校の現職高校教員

（考）…考察者

《 》…方略名

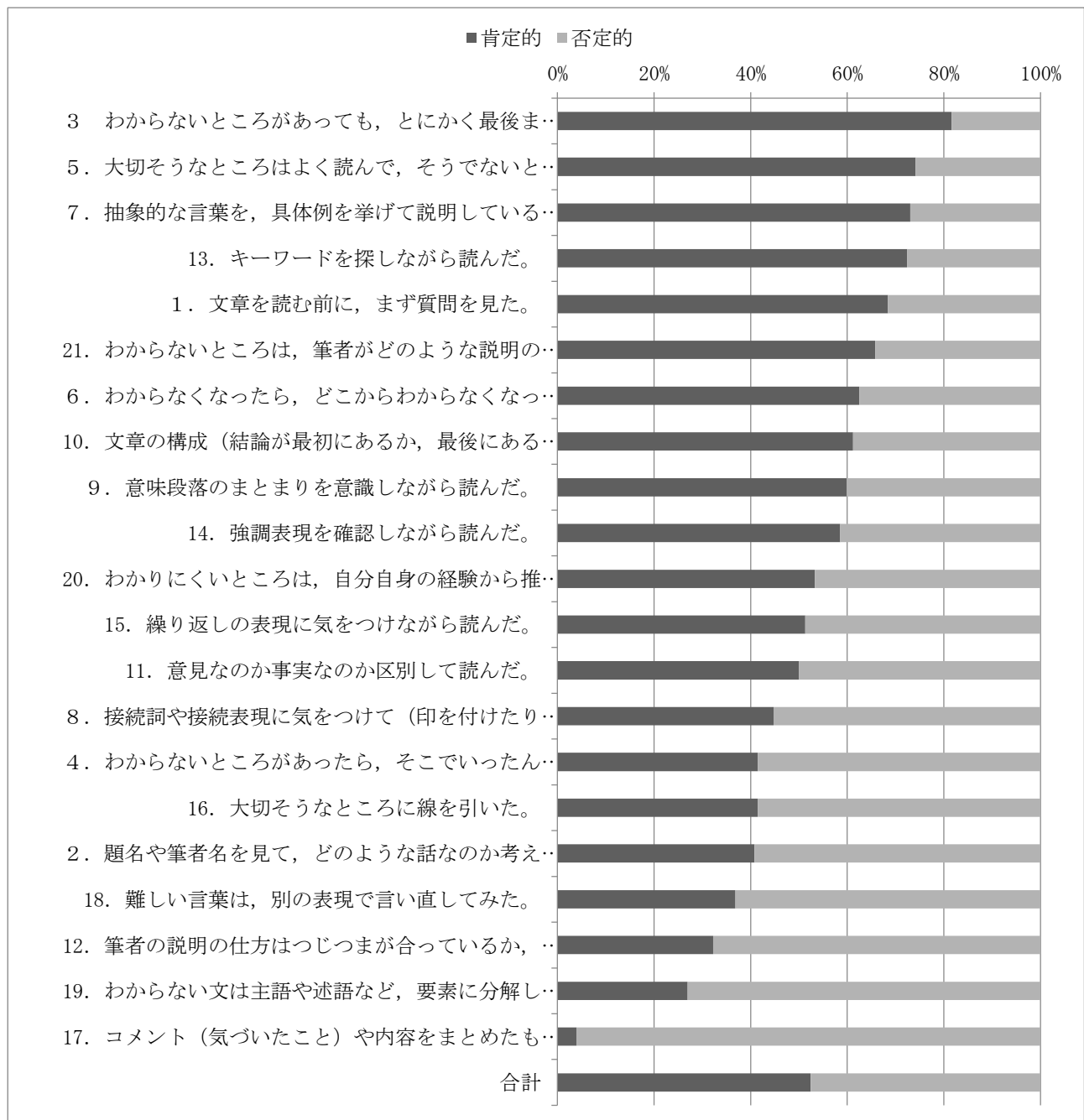
補足資料6 「高校生の評論文読解に関する調査」の正答率

全体 69.9%	一								平均
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
	57.2%	39.5%	81.6%	27.6%	90.8%	97.4%	65.1%	96.7%	69.5%
	二							平均	
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ		
	74.3%	69.1%	97.4%	27.6%	78.9%	84.9%	79.6%	73.1%	
	三								
	78.3%								
	四								
	41.4%								

補足資料7 「読解方略使用傾向調査」結果

番号	読 解 方 略	肯定的	%	否定的	%
1	文章を読む前に、まず質問を見た。	105	69.1%	47	30.9%
2	題名や筆者名を見て、どのような話なのか考えた。	61	40.1%	91	59.9%
3	わからないところがあっても、とにかく最後までひとつとおり読んだ。	124	81.6%	28	18.4%
4	わからないところがあったら、そこでいったん読み進めるのをやめて考えた。	64	42.1%	88	57.9%
5	大切そうなところはよく読んで、そうでないところはさっと読んだ。	111	73.0%	41	27.0%
6	わからなくなったら、どこからわからなくなったのかを考え、そこから読み直した。	95	62.5%	57	37.5%
7	抽象的な言葉を、具体例を挙げて説明しているところに気をつけて読んだ。	111	73.0%	41	27.0%
8	接続詞や接続表現に気をつけて（印を付けたりしながら）読んだ。	68	44.7%	84	55.3%
9	意味段落のまとまりを意識しながら読んだ。	90	59.2%	62	40.8%
10	文章の構成（結論が最初にあるか、最後にあるかなど）を意識しながら読んだ。	92	60.5%	60	39.5%
11	意見なのか事実なのか区別して読んだ。	77	50.7%	75	49.3%
12	筆者の説明の仕方はつじつまが合っているか、考えながら読んだ。	49	32.2%	103	67.8%
13	キーワードを探しながら読んだ。	110	72.4%	42	27.6%
14	強調表現を確認しながら読んだ。	89	58.6%	63	41.4%
15	繰り返しの表現に気をつけながら読んだ。	79	52.0%	73	48.0%
16	大切そうなところに線を引いた。	63	41.4%	89	58.6%
17	コメント（気づいたこと）や内容をまとめたものを書き込んだ。	6	3.9%	146	96.1%
18	難しい言葉は、別の表現で言い直してみた。	55	36.2%	97	63.8%
19	わからない文は主語や述語など、要素に分解して考えた。	41	27.0%	111	73.0%
20	わかりにくいところは、自分自身の経験から推測して読んだ。	80	52.6%	72	47.4%
21	わからないところは、筆者がどのような説明の仕方か、何を主張しようとしているのかを考えて、理解しようとした。	100	65.8%	52	34.2%
合計		79.5	52.3	72.5	47.7

補足資料8 「読解方略使用調査」結果（肯定的解答の降順）



補足資料 9 読解に対して有効と推測される読解方略

質問		読 解 方 略
一	②	7 抽象的な言葉を，具体例を挙げて説明しているところに気をつけて読んだ。
		11 意見なのか事実なのか区別して読んだ。
		14 強調表現を確認しながら読んだ。
		21 わからないところは，筆者がどのような説明の仕方か，何を主張しようとしているのかを考えて，理解しようとした。
	④	10 文章の構成（結論が最初にあるか，最後にあるかなど）を意識しながら読んだ。
		11 意見なのか事実なのか区別して読んだ
二	エ	10 文章の構成（結論が最初にあるか，最後にあるかなど）を意識しながら読んだ。
		20 わかりにくいところは，自分自身の経験から推測して読んだ。
四		※5 大切そうなところはよく読んで，そうでないところはさっと読んだ。
		※6 わからなくなったら，どこからわからなくなったのかを考え，そこから読み直した。 ¹
		7 抽象的な言葉を，具体例を挙げて説明しているところに気をつけて読んだ。
		※9 意味段落のまとまりを意識しながら読んだ。
		※10 文章の構成（結論が最初にあるか，最後にあるかなど）を意識しながら読んだ。
		※14 強調表現を確認しながら読んだ。
		※21 わからないところは，筆者がどのような説明の仕方か，何を主張しようとしているのかを考えて，理解しようとした。
		(13) キーワードを探しながら読んだ。 ²

補足資料 10 読解に対して有効と推測される読解方略（使用率の低い方略）

質問		読 解 方 略
一	②	8 接続詞や接続表現に気をつけて（印を付けたりしながら）読んだ。
		16 大切そうなところに線を引いた。
	④	12 筆者の説明の仕方はつじつまが合っているか，考えながら読んだ。
		18 難しい言葉は，別の表現で言い直してみた。
二	エ	なし
四		※4 わからないところがあつたら，そこでいったん読み進めるのをやめて考えた。
		※15 繰り返しの表現に気をつけながら読んだ。
		※20 わかりにくいところは，自分自身の経験から推測して読んだ。
		★16 大切そうなところに線を引いた。 ³

¹ ※は，正答者と誤答者間および正答者と部分点者間の2つから抽出された項目。

² () は，正答者と部分点者間より抽出された方略。

³ ★は，正答者と誤答者間および部分点者と誤答者間の2つから抽出された項目。

補足資料 11 正答率が低かった質問の誤答例

一	②	・プールロートル ・人性の自然 ・他者のために、ということの原基的な形態
	④	・要請し、同時に相手によって存在することを要請されている ・相手によって存在する ・存在し合っている
四	【誤答】	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりのできることを二人がかりでやる。それによって「あなたなしでは私はこのことを完遂できない」というメッセージを相互に贈り合うこと。それがもっとも純粋な交換のかたちである。 ・人は一人で生きていくのではなく他者と存在を要請し合いながら生きていくことが成熟の指標である。 ・ひとりのできることを二人がかりでやることによって人間は社会的に成熟していくということ。 ・人間は一人では生きていけないということ。
	【部分点】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが成熟するに従って you の数は増える。また「その人がいなくては生きてゆけない人間」の数の多さが「成熟」の指標であるということ。 ・「交換」（キャッチボール）によって「その人がいなくては生きてゆけない人間」（you）の数を増やし、その多さこそが「成熟」の指標だということ。 ・「その人がいなくては生きていけない人間」の数の多さが「成熟」であり、「贈与」して人間的尊厳を基礎づけることが必要である。

補足資料 12 読解方略の分類

作業的方略	I 最初に文章を読むとき	1	文章を読む前に、まず質問を見た。
		2	題名や筆者名を見て、どのような話なのか考えた。
		3	わからないところがあっても、とにかく最後までひととおりに読んだ。
		4	わからないところがあったら、そこでいったん読み進めるのをやめて考えた。
		5	大切そうなところはよく読んで、そうでないところはさっと読んだ。
		6	わからなくなったら、どこからわからなくなったのかを考え、そこから読み直した。
作業的方略	II 文章を読みながら	13	キーワードを探しながら読んだ。
		14	強調表現を確認しながら読んだ。
		15	繰り返しの表現に気をつけながら読んだ。
		16	大切そうなところに線を引いた。
思考的方略	II 文章を読みながら	7	抽象的な言葉を、具体例を挙げて説明しているところに気をつけて読んだ。
		8	接続詞や接続表現に気をつけて（印を付けたりしながら）読んだ。
		9	意味段落のまとまりを意識しながら読んだ。
		10	文章の構成（結論が最初にあるか、最後にあるかなど）を意識しながら読んだ。
		11	意見なのか事実なのか区別して読んだ。
		12	筆者の説明の仕方はつじつまが合っているか、考えながら読んだ。
	III わからないところがあったとき	17	コメント（気づいたこと）や内容をまとめたものを書き込んだ。
		18	難しい言葉は、別の表現で言い直してみた。
		19	わからない文は主語や述語など、要素に分解して考えた。
		20	わかりにくいところは、自分自身の経験から推測して読んだ。
		21	わからないところは、筆者がどのような説明の仕方か、何を主張しようとしているのかを考えて、理解しようとした。

補足資料 13 評論文読解力向上を図る学習指導案の枠組み

<p>①指導者によるモデルの提示（方略の明示的指導）</p> <ul style="list-style-type: none">・読解方略指導であることを明示する。・指導者が読解方略および特定の読解方略を使用することが有効な読みの条件（条件的知識）を説明する。・思考と方略の使い方を見せるために、指導者がテキストの一部を読みながら、解釈とそのときに使用した読解方略および方略の使い方を説明する。
<p>②実践の手引き（読みの主体（方略を使用してテキストを解釈する主体）の緩やかな移行）</p> <ul style="list-style-type: none">・指導者と学習者が、テキストの全体にわたって、一緒にその方略を実践する。
<p>③他者との共同（「類似文脈」による読みの相互交流）</p> <ul style="list-style-type: none">・学習者に読みの相互交流をさせる。・相互交流では、その考えに至った理由や読み取る際に使った方略、また、それは妥当な選択・使用であったかということも交流させる。・全体での交流、小グループでの交流、ペアでの交流というように、活発な交流活動の機会を確保する。
<p>④「複数文脈」による個別の実践</p> <ul style="list-style-type: none">・「複数文脈」に出会わせ、単一の方略を使用するだけでは論理展開を読み取れないという困難を認知させる。・使用した方略が、どのような表現や課題のもと可能であったのか、方略をどのように「選択」「統合」させれば読解が可能であったのかを相互交流させる。
<p>⑤ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none">・学習者に、自分の思考過程をふりかえらせる。・方略の「選択」「統合」が有効な読みの条件を認知させる。